

**平成30年第2回雲仙市議会定例会**

**市長報告  
(開会)**

**平成30年6月7日**

**雲仙市長 金澤 秀三郎**

## **【ジュニアスポーツにおける活躍について】**

小中学生の活躍につきましては、4月1日から2日にかけて開催された「平成30年度ジュニアクイーンズカップ・レスリング選手権大会」に国見中学校の内野杏美さんが出場され、準優勝の成績を収められました。

また、4月22日に開催された「第41回長崎県道場少年剣道大会」において愛野少年剣道部が出場され、見事、準優勝を果たし、7月に開催される全国大会へ3年連続となる出場権を獲得されました。

なお、3月24日から25日にかけて開催された「第15回九州中学生選抜軟式野球大会」に国見中学校軟式野球部が、4月20日から22日にかけて開催された「第3回九州中学選抜卓球大会」に、愛野中学校と小浜中学校の卓球部の皆さんが長崎県の代表として出場されました。

皆様方の今後益々のご活躍を期待いたしております。

## **【第15回長崎県ねんりんピックについて】**

5月12日、第15回長崎県ねんりんピックが開催され、雲仙市からは10の競技種目に111名の選手が参加し、ソ

フットテニス競技の部で国見町の吉武俊雄様、千々石町の林田ともえ様、マラソン競技の部で愛野町の佐藤久美子様が見事優勝されました。

心からお祝い申し上げますとともに、出場されました皆様の今後の更なるご活躍を期待いたしております。

### **【未来につながる持続可能な農業推進コンクールについて】**

3月23日に開催された「九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」の有機農業・環境保全型農業部門、個別経営の部において、国見町の栗原光博様が「九州農政局長賞」を受賞されました。

今回の受賞は、環境保全型農業の取り組みを通じて、環境負荷低減や生物多様性の保全に成果を上げられていることが高く評価されたものであり、本市の農業振興に繋がるものと考えております。

続きまして、主な市政の取り組み等について、第2次雲仙市総合計画の基本方針に基づき報告させていただきます。

## 【基本方針1「暮らしと安心」の分野について】

高齢者福祉につきましては、5月31日、株式会社セブン-イレブン・ジャパン様と「雲仙市高齢者見守りネットワーク事業」に関する協定書を締結いたしました。

このことは、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の方など、日常生活に不安を持っておられる方々にとって、大きな安心に繋がるものと期待いたしております。

防災の取り組みにつきましては、5月23日、市内4箇所の危険箇所について、担当部署から説明を受けながら点検を実施いたしました。

また、5月25日には雲仙市防災会議を開催し、3月に行った雲仙市地域防災計画の抜本的見直しに基づき策定した、災害時の市役所業務の対応を図る「雲仙市業務継続計画」や、「避難所運営マニュアル」などの概要を説明いたしました。

今後におきましても、災害の未然防止と被害の拡大防止に向け、関係機関との情報共有と連携強化を図ってまいります。

## 【基本方針2「産業と交流」の分野について】

農業生産基盤の整備につきましては、4月27日、南串山

町の岡南部地区におきまして、浅野政輝様を理事長とする岡南部土地改良区の設立総会が開催され、受益面積43.9ヘクタール、総事業費27億3,000万円の事業が、平成36年度の完了を目指してスタートいたしました。

今後も、新たな基盤整備地区の掘り起こしなど、積極的な推進を図ってまいります。

水産業の振興につきましては、漁業後継者育成の取り組みとして、昨年の6名に続き、新たに3名の新規漁業就業者を確保し、技術習得研修を開始したところでございます。

橘湾沿岸におきましては、『橘湾浜の活力再生広域プラン』に基づく漁船リース事業により2隻の漁船を導入され、さらにブリ類養殖産地協議会の設立や雇用型漁業育成支援事業などの新たな取り組みが始まっております。

また、3月下旬から5月上旬まで、国見町神代地区、瑞穂町古部地区の海岸で、地元漁協によるアサリの潮干狩りが開催されました。

今年は、昨年より約1,500人多い、延べ7,954人の市民及び市外の方が潮干狩りを楽しまれており、産業育成及び交流人口の拡大の観点からも、引き続き種苗放流や生息

環境改善等の資源確保の支援に取り組んでまいります。

物産の振興につきましては、4月19日から24日にかけて、長崎市にあります夢彩都で島原半島3市の物産展となる「島原半島物産フェア」を開催し、販売を通じて本市の特産品の魅力を多くの方々に発信いたしました。

また、5月21日から6月3日まで、株式会社アグリゲートが都内で11店舗を運営する旬八青果店と雲仙市とのコラボイベントとして、雲仙市の旬の野菜と加工品の14品目を販売、PRする「雲仙市フェア」を開催いたしました。

この「雲仙市フェア」は秋の開催も予定しており、今回の結果を踏まえ、物産販売のより効果的な促進に努めるとともに、あらゆる機会を活用し、本市の物産及び観光の振興に取り組んでまいります。

観光の振興につきましては、5月15日から21日までの7日間、ミヤマキリシマをライトアップした春期初めての「雲仙仁田峠プレミアムナイト」が開催され、期間中に参加された約300名の方は、夜の仁田峠観光を満喫されたと伺っております。

このような新たな観光素材の開発や資源活用による取り

組みは、本市への宿泊客をはじめとした観光客誘致につながるものと期待しております。

雲仙ふるさと大使につきましては、5月12日、医療機器関係会社の経営者であり、医療業界に、多大なるご功績を残されている小浜町出身の森清一様に就任いただきました。

森様のこれまでの豊富なご経験や、限りない愛郷心により、本市を広くPRしていただけるものと期待いたしております。

なお、昨年12月に就任された田中大貴様が所属するアルバルク東京は、プロバスケットボール男子Bリーグのプレーオフ、チャンピオンシップで見事優勝され、個人としても、最優秀選手賞を受賞される等、大変輝かしい成績を収められておられます。

今後も、18名の雲仙ふるさと大使の皆様方のお力添えを得ながら、本市のイメージアップに取り組んでまいります。

観光・交流の分野につきましては、4月1日、雲仙市地域づくり補助金を活用し、小浜温泉地区の伝統行事の継承と地域間交流を目的とした小浜温泉湯祭りが盛大に開催されました。

実行委員会の皆様をはじめ関係各位のご尽力により、地域資源を活用したイベントとして、交流人口の拡大が図られていることに対し心からお礼申し上げます。

また、同日は、本市との観光交流を目的として、姉妹都市の韓国求礼郡から、6月で退任される 徐沂東 郡守様をはじめ13名がお越しになり、雲仙市議会から元村議長をはじめ議員の皆様にもご参加いただきました。

平成19年の姉妹都市締結から今日まで本市との友好関係を築いてこられた徐沂東 郡守様のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後も、姉妹都市をはじめとする地域との関係を深め、交流人口の拡大に向け取り組んでまいります。

### **【基本方針3「社会基盤と環境」の分野について】**

道路の整備につきましては、国道57号の現道の機能強化並びに、島原道路の未着手区間の新規事業化と、現在整備中区間の早期整備の実現に向けた要望に取り組んでまいりましたが、平成30年度国土交通省道路関係予算におきまして、国道57号の小浜町富津地区の富津視距改良事業や、地域高規格道路「島原道路」の瑞穂吾妻バイパス事業等の継続事業

につきまして引き続き予算化されました。

元村議長をはじめとする議員各位及びご尽力をいただいた関係者の皆様に対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、去る5月17日に、雲仙市と南島原市の団体による「愛野小浜バイパス建設に関する署名」活動につきまして、集められた署名簿を国土交通省長崎河川国道事務所長へ提出されております。

活動に参加された多くの皆様に感謝申し上げますとともに、雲仙市における交通環境整備促進に向けた要望活動に、さらに取り組んでまいります。

#### **【基本方針4「人財と郷土」の分野について】**

スポーツの推進につきましては、4月21日から、5月3日にかけて、「第13回雲仙市ジュニアスポーツ大会」が開催され、10競技27種目に、県内外から250チーム、総勢3,018名の参加がございました。

本大会の開催にあたり、ご尽力いただいた市体育協会と各競技団体の皆様に感謝申し上げますとともに、今後とも市民

参加型スポーツの推進に取り組んでまいります。

### 【基本方針5「協働と戦略」の分野について】

本市の情報発信への取り組みにつきましては、5月20日、関東島原半島会の第70回総会に元村議長とともに出席し、本市特産品やふるさと納税のPR等を行ってまいりました。

今後におきましても、雲仙市の歴史、文化、自然等の魅力を発信し、交流人口の拡大と移住者の増加に向けて取り組んでまいります。

庁舎整備につきましては、4月23日、児童図書を充実させた南串山図書室の開所式を行いました。今後、子育て世代をはじめとする市民の皆様に親しまれる施設運営に努めてまいります。

また、4月27日に瑞穂総合支所あり方検討委員会を開催し、12名の委員に委嘱状を交付いたしました。

市民の皆様が集い、交流できる施設として方向性を整理していただきますよう、委員会での検討を期待しております。

地方創生につきましては、5月22日から25日にかけて、ゆとり研究所の野口智子氏を地域力創造アドバイザーとし

て招聘し、市内各団体等の取り組みや現地視察などを実施いたしました。

今後、助言や指導を受けながら、意見交換やワークショップを開催するとともに、地域力、市民力を育み、本市の将来像である「つながりで創る 賑わいと豊かさを実感できるまち」の実現に向け、協働のまちづくりに取り組んでまいります。